

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	基山町立基山小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・校内研究を柱とした授業改善については、次年度も継続して取り組む。対話を位置づけた授業づくりは、児童の主体的な学びにもつながら学習効果が期待できると考える。</p> <p>・心の教育の柱である人権・同和教育と道徳教育、特別活動などを通して、児童の人権への意識を高め、「ほめる」ことを大切にしながら指導に継続して取り組む。</p> <p>・小中一貫教育として中学校との連結を意識した、学習指導、生徒指導、特別支援教育等に今後も継続して取り組む。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>きたえ やりぬき まなびあう</p> <p>【 夢いっぱい基山っ子！ 笑顔であいさつ・笑顔でありがとう 】</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①校内研究を柱として、主体的・対話的な学びを重視した授業づくりに取り組む。</p> <p>②すべての子供が安心して学べる教室環境づくり目指し、UD化と特別支援教育の質の向上を図りながら、学校教育の中心としてインクルーシブ教育を推進する。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童が主体的に学ぶ授業の実践	○「友達との対話などを通して、学習への意欲が高まった」と回答した児童85%以上	・校内研究の「主体的・対話的な学び」柱とした授業づくりを通して、児童の主体的な学びを育成する。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	・人権集会や授業参観での道徳等の授業公開などを通して、児童の人権意識向上を目指す。							・道徳科担当 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの未然防止・早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上	・月ごとのいじめアンケートを通して、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・職員研修会を実施し、いじめへの理解、その対応について見識を高める。 ・管理職、教育相談、SC、担任との相談体制を構築し、連携を図る。							・教頭、主幹教諭 ・生徒指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・学級づくりや児童対応等について職員の共通理解を図り、児童の自尊感情を育成する。 ・学校行事等やキャリアパスポートなどを活用し、児童の夢や希望を育む。							・学校行事担当(教頭、主幹、教務、各学年) ・「きやま学」担当
	○(学校独自重点取組・任意)									
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●「安全を意識して生活をしている」と回答した児童70%以上 ●「災害などが起きたときに、命を守る行動をとることができる」と回答した児童70%以上	・交通安全教室や避難訓練などを実施し、児童への安全意識と行動力の向上を図る。 ・HPや学年通信等で家庭への啓発を図り、学校全体で安全に対して取り組む。							・安全指導担当
	○食育教育の充実	○給食に関するアンケートで、給食が楽しいと回答した児童90%以上 ○「朝食を食べてきている」と回答した児童80%以上	・給食日より教科教育を通じて、児童の食への意識の向上を図る。 ・栄養教諭と学級担任との食育に関する授業の実施。 ・「食」への大切さを家庭へも情報発信し、食や朝食への意識を高める。							・栄養教諭 ・食育指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員へのタスクマネジメントを意識した業務改善への啓発と退勤時間の徹底。 ・長期休業中の研修等を計画的に実施し、休暇取得を推進する。							・教頭、主幹教諭、教務
	○働きやすい職場環境の整備	○「職員が働きやすい職場環境である」と回答した職員80%以上	・学期ごとに教育計画や職場環境等のアンケートの実施する。 ・職員の見解を参考としながら教育計画や学校行事等の改善する。							・教頭、主幹教諭、教務
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・職員研修等を通して、特別支援教育に対する職員の専門性の向上を図るため、連絡会や講師を招聘しての学習会を実施する。 ・特別支援学級間の連携を図るための定期的な情報交換会を実施する。							・特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○基本的な生活習慣の定着と情報モラル教育	○あいさつ、返事、廊下歩行、はきもの揃いの定着 ○情報モラル教育の推進	○基山小中一貫の取組「す・み・そ・あ・じ」を達成できたと回答した児童80%以上 ○情報モラルへの知識:理解があると回答した児童80%以上	・生徒指導連絡会などを通して、職員の共通理解を図りながら、共通実践に取り組む。 ・新たに児童による委員会を設け、児童が主体となって学校生活を改善できるようにする。 ・年間計画に沿って、全学年で情報モラル教育に取り組む。			
○インクルーシブ教育の推進	○すべての子供が安心して学べる教育環境のUD化とインクルーシブ教育の推進	○教育環境のUD化とインクルーシブ教育に取り組んだと回答した職員80%以上 ○職員の子チェックシートを作成し、80%以上の達成	・どの子も安心して楽しく学べる環境をつくるために特別支援教育部(特別支援教育CO・通級教室担当)が推進役となり、教育環境のUD化とインクルーシブ教育の実践等に取り組む。							・特別支援教育コーディネーター ・通級指導担当

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p>
----------------	----------------------------------